

福岡市におけるインフルエンザの流行状況(2006 年度)

保健科学部門 ウイルス担当

福岡市における 2006/2007 シーズンのインフルエンザ様疾患の集団発生は 2007 年 1 月 30 日(第 5 週)に始まり、2005/2006 シーズンより 2 週遅い時期からのスタートとなり、全国の集団発生集計結果(図 1)と同じ 10 週目にピークを認めた。福岡市内における集団発生は計 73 施設で発生し、患者数は 2,080 人(表 1)と、過去 5 年間の中で最も多かった(表 2)。

感染症発生動向調査において、本市における 2006/2007 シーズンのインフルエンザの流行は 2005/2006 シーズンより遅く、年が明けたあたりから患者が増加し始めた。流行のピークは集団発生とほぼ同時期であり、2007 年 11 週目に明確なピークが認められ、その後は終息した(図 2)。

表 1 集団発生事例における施設別発生状況

施設	発生施設数	在籍者数	患者数	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園	7	280	136	0	4	3
小学校	39	2,252	1,142	0	11	28
中学校	25	1,615	751	0	3	22
その他	2	123	51	0	0	2
計	73	4,270	2,080	0	18	55

表 2 過去 5 年間の年度別集団発生患者数

年度	2002	2003	2004	2005	2006
患者数	813	571	722	295	2,080

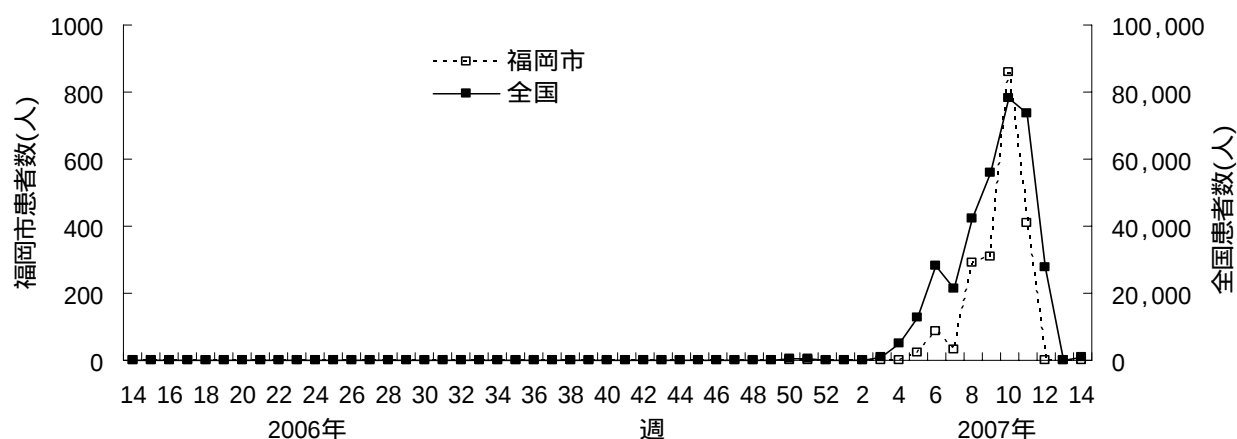


図 1 インフルエンザ様疾患集団発生患者数

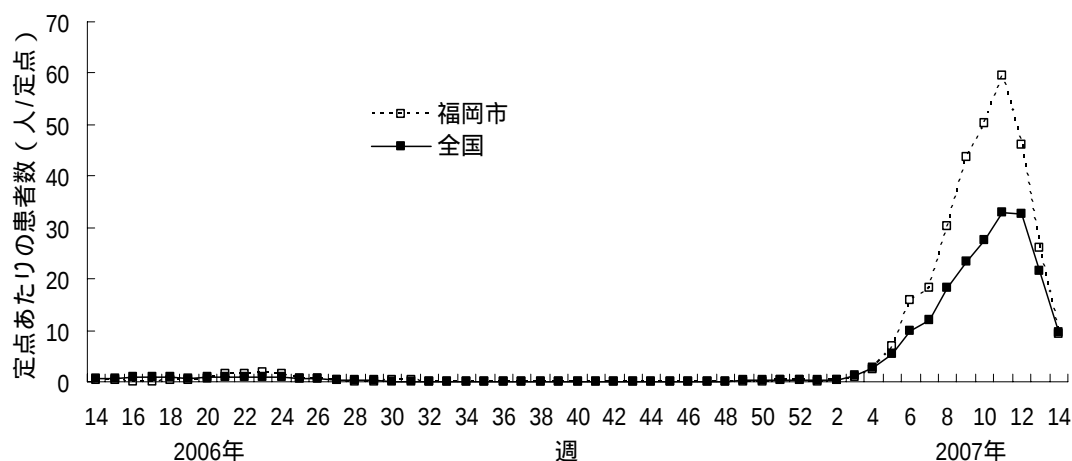


図 2 定点あたりのインフルエンザ患者報告数

当所における感染症発生動向調査からのウイルス分離は、AH1型が8株、AH3型が15株、B型が19株であり、前年度はAH3型の流行であったが、今年度は19週から24週にかけてB型であったが、年が明けてからAH1

型、AH3型、およびB型の流行がみられた(図3)。

なお、分離株の同定には国立感染症研究所配布のフェレット感染抗血清および羊免疫血清を用い、HI試験によって判定した。

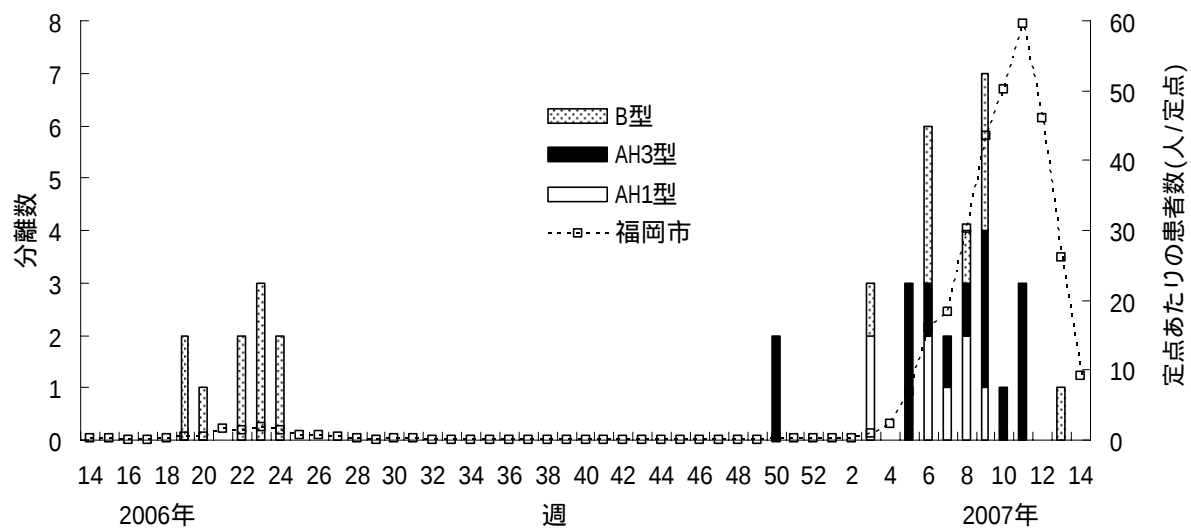


図3 福岡市における定点あたりのインフルエンザ患者報告数とウイルス分離数